

目 次

ソフトボールの未来を語ろう ～私たちは、歩み続ける～

創立70周年を迎えて	(一社) 富山県ソフトボール協会長 田畑 裕明	1
祝 辞	(公財) 日本ソフトボール協会長 徳田 寛	2
祝 辞	(公財) 富山県体育協会長 石井 隆一	3
富山県ソフトボール協会の歩むべき方向 ～ビジョン～		4
富山県ソフトボール協会のあゆみ		7
各支部協会のあゆみ		13
各委員会のあゆみ		32
資 料		37



第52回日本女子ソフトボールリーグ1部第8節黒部大会
令和元年10月5～6日

ソフトボールの未来を語ろう

～私たちは、歩み続ける～



文部科学大臣杯 第54回全日本大学男子ソフトボール選手権大会 田畑会長挨拶

令和元年9月6～8日



創立70周年を迎えて

一般社団法人 富山県ソフトボール協会

会 長 田 畑 裕 明

今年、元号が変わり「令和」と命名されました。「令和」の時代が麗しく希望に満ちて平和で輝く時代であるよう期待したと、高志の国文学館（富山市）の中西進館長が述べておられます。

その新しい時代に合わせるように、当協会も今年、大きな節目である「70周年」を迎えることができました。当協会は、昭和24年7月に富山県ソフトボール協会としてスタートし、戦後の復興が進む中、小さな1歩を歩み始めました。その小さな1歩を積み重ね、こうして70周年という大きな節目を迎える事ができましたのも、歴代役員と支部協会の皆様方の永年に亘る弛まぬ努力の賜であり、心から敬意を表し感謝を申し上げる次第であります。

さて、近年の10年を振り返ってみますと、日本女子リーグ1部を平成22年高岡市、24年射水市、25年黒部市、27年高岡市、そして、本年には黒部市で開催し、日本男子東日本リーグを平成23年黒部市、28年から今年まで4年連続で富山市で開催しました。さらに、日本女子リーグ2部、全国スポレク祭女子ソフトボール競技、全日本実業団男子選手権大会、高校総体、全日本小学生女子大会など、数多くの全国級の大会を開催してきました。一流のプレーは見る者を魅了し、夢と感動と与えます。ソフトボール愛好者のみならず、多くの県民の皆様にも楽しんでいただけたものと考えています。また、県内チームの競技力では、YKK女子が全日本実業団大会で3位入賞（H26, 27, 29, R1）、YKK男子が全日本総合男子大会で3位入賞（R1）、ニコルズが全日本壮年大会で優勝（H22, 24）、戸出マスターズが日本スポーツマスターズでベスト4入賞（H28）、福井しあわせ元気国体では少年男子が5位に入賞（H30）しました。さらに、春季全日本小学生女子大会で3位に入賞したのは、ダイヤモンドキッズ（H25）、経田B-WINGS（H27）でした。このように、大きな成果も残してきました。加えて、競技環境の整備では、県当局のご理解を得て、岩瀬ソフトボール広場A・D球場に観戦スタンドを新設していただきました。

このように、当協会は1年1年を確実に歩んできました。しかし、少子化による小・中学校チーム数の激減、審判・記録員、役員の高齢化、そして、競技力の伸び悩み等々、課題も山積しています。それでも、令和元年4月1日に当協会を一般社団法人化し社会的信用力を得るとともに、協会事務所を新たに設置しました。また、全日本大学男子選手権大会の5年継続開催が決定し、今年、その初年度を無事終了することができました。

今、この機会に、ソフトボール競技環境の現状を見つめ、そこから見える未来を語り、また新たな1歩を歩み始めたいと考えています。私たちは、当協会が、ますます充実・発展するために、課題から逃げず果敢に挑戦し続けます。そして、今回の70周年が80周年、そして、100周年へ向けた新たなスタートだと位置づけ、協会関係者一同一丸となって、歩み続ける所存です。

結びに、(公財)日本ソフトボール協会、富山県総合政策局、(公財)富山県体育協会等関係の皆様には、これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げご挨拶と致します。



祝 辞

公益財団法人 日本ソフトボール協会

会 長 徳 田 寛

富山県ソフトボール協会が、このたび創立70周年を迎えられるとのこと、誠におめでたくお祝い申し上げます。また、これを機に輝かしい実績を後世に伝える記念誌を関係各位のご努力により発刊されることは誠に意義深く、心から敬意を表しお慶び申し上げます。

富山県ソフトボール協会が発足以来、今日までソフトボール競技の発展に多大な貢献をされ、数々の実績を挙げられましたことは誠に喜ばしい限りであります。貴協会のご努力により、ソフトボール競技が県内でも人気の高いスポーツに成長し、また、この度、富山県ソフトボール協会の法人格を取得し、協会運営の更なる発展を遂げようとする関係各位のご努力、ご尽力に心から敬意を表する次第であります。

ソフトボールを含めたスポーツは、戦後の荒廃した世情の中にあって多くの人々に夢と希望を与え、日本再建の大きな原動力となりました。特にソフトボールは戦後新しく始められた競技でありながら、2008年北京オリンピックでの金メダル獲得など今日の隆盛をみることが出来たのは、多くの苦難を乗り越え、その普及と振興にご尽力された貴協会をはじめとする協会の諸先輩方と現在ご活躍いただいている皆様方のご尽力の賜物といえましょう。

来る2020年には東京でオリンピックが開催され、ソフトボール関係者の念願であったソフトボール競技の復帰が決まり、2008年北京オリンピックでの金メダル獲得の再現が必ずや果たされるように、またこれを機にさらに多くの方々にこのソフトボールという競技が持つ「真の魅力と楽しさ」を発信し、新たな競技人口の獲得やさらなる普及・発展に努めてまいりたいと思っておりますので、引き続き、ご支援、ご協力をお願いできればと思います。

最後に、富山県ソフトボール協会の70年の歩みに改めて心からの敬意を表し、これを契機に更なるご発展をご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。



一般社団法人 富山県ソフトボール協会

創立70周年を祝して

公益財団法人 富山県体育協会

会 長 石 井 隆 一

このたび、一般社団法人富山県ソフトボール協会が創立70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会には、昭和24年7月の創立以来、関係の皆様の固い結束のもと、本県ソフトボール競技の普及と競技力の向上に多大なご尽力をいただいています。

「2000年とやま国体」では、貴協会の総力を結集され、大会を大成功に導かれるとともに、種目別男女総合成績1位、女子総合成績2位の偉業を達成され、本県の天皇杯男女総合優勝に大きくご貢献いただきました。

また、数多くの全国大会の本県開催に多大なご尽力をいただいております、平成24年に全国高等学校総合体育大会を、平成25年には全日本実業団男子選手権大会を誘致されており、本年から5年間にわたって、この5月に観戦用スタンドを整備した県の岩瀬スポーツ公園・ソフトボール広場において、全日本大学男子選手権大会が開催されることになっています。

ここに、田畑会長をはじめ歴代役員並びに会員の皆様の長年にわたるご熱意とご努力に対し、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会を創るうえで、大変重要な役割を果たしています。このため、富山県体育協会では、本県の体育・スポーツの普及・振興を図ることを目的に、貴協会をはじめ各競技団体との密接な連携のもと、各種競技大会の開催、優秀な選手の育成強化、国際交流事業の推進などに積極的に取り組んでいます。とりわけ、ソフトボールについては、野球とともに、来年開催される東京オリンピックの正式種目となり、ますます盛り上がりを見せております。

貴協会には、このたびの創立70周年を契機として、さらに大きく飛躍されますとともに、今後とも、本県ソフトボール競技の普及と競技力の向上に一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、貴協会の限りないご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

富山県ソフトボール協会の歩むべき方向 ～ ビジョン ～

「キャッチボールができない」のは、子供たちだけでなく、その親の世代まで広がっている。ゴールデンタイムに生中継されていたプロ野球のテレビ放映は姿を消しつつある。空き地やグラウンドで草野球に興じていた子供たちの風景はもはやどこにもない……。この様な状況に日本ソフトボール協会は大きな危機感をもち、「2030年ありたい姿プロジェクト」を立ち上げ取り組みを始めています。
※日ソ協70周年記念誌より抜粋

私たち富山県ソフトボール協会も地域に密着した立場から、上記のような厳しい現状を認識しており、非常に大きな危機感をもっています。そこで、日本ソフトボール協会のプロジェクトに積極的に協力するとともに、当協会として何ができるのか……。現状を確認し課題を洗い出し、それを克服する取り組みを日本ソフトボール協会に準じ、「する」「みる」「ささえる」をキーワードに考えました。

【富山県の現状】

「する」

○小・中学生チーム数の減少

小学生女子：H20＝11チーム→H30＝6チーム

中学校女子：H20＝35チーム→H30＝30チーム

○シニア、壮年、エルダー、一般男子等チーム数の減少

H20＝174チーム → H30＝132チーム

○競技力の伸び悩み

H20頃＝北信越国体では、2～3種目出場権を獲得

H30＝北信越国体では、少年男子のみ出場権を獲得

「みる」

○女子1部・2部リーグ観客数の減 ※天候の影響あり

H22、1部リーグ開催(高岡市)＝1,936人入場

R1、1部リーグ開催(黒部市)＝1,400人入場

○北信越大会以上の大会開催アピール

岩瀬ソフトボール広場への観戦客数は伸びていない

○メディアへの情報提供

大会取材のメディアが限られている

「ささえる」

○指導者の育成・確保

H20＝191人 → H30＝270人

○審判、記録、役員数の減少と高齢化

H20＝928人 → H30＝704人

3/4以上が60歳以上

○組織運営の質の向上 全員で活動するという意識が低い



【富山県の課題と取り組みの方向】

「す る」

○小・中学生チーム数の現状維持か、できれば増加

- ・「ASOBALL」プロジェクトの推進
- ・小学生男子チームの結成と育成
- ・中学生クラブチーム化の推進
- ・小・中学校教諭対象研修会の継続開催
- ・未経験者をも対象にしたソフトボールフェスティバルの開催



○一般チーム数の現状維持

- ・事業所、町内会、同好会等へ大会開催のアピールや広報を効果的に実施
- ・スローピッチ大会等参加しやすい大会の創設



○競技力の向上

- ・富山県体育協会等関係機関と連携・協力して競技力向上策、指導者育成を中、長期的なロードマップの作成と実施。

「み る」

○女子1部・2部リーグ観客数の増加

- ・リーグ選手によるソフトボール教室等の開催
- ・小・中学生による始球式やエスコートキッズの推進
- ・近隣県チームへの周知
- ・大会の事前周知と効果的な広報
- ・メディアへの広報、取材依頼



○北信越大会以上の大会開催アピールの向上

- ・全球場での動画配信
- ・SNS等を活用したタイムリーな情報発信
- ・県内全チームへの周知
- ・近隣住民への周知

○メディアへの情報提供の工夫

- ・年度当初と大会等行事開催時等複数回の取材依頼
- ・日頃から情報交換を緊密に実施



「ささえる」

○指導者の育成と質の向上と増加

- ・ 著名な指導者を招聘した研修会の開催
- ・ 指導者の魅力を発信
- ・ 指導者を対象にした情報交換等研修会を開催

○審判、記録、役員数の増加と若返り

- ・ 審判、記録員講習会の随時開催
- ・ 審判委員会、記録委員会ともに女性部の育成と活発な活動への助成
- ・ 審判員の服装等経費への補助
- ・ 審判、記録員の魅力発信
- ・ 支部協会と連携した人事交流の活性化
- ・ 魅力ある役員の姿を発信

○組織運営の質の向上

- ・ 役員を対象にした意識向上研修会の開催
- ・ 役員一人一人が積極的に活動できる適材適所の組織作り
- ・ やりがいのある環境整備
- ・ 支部協会への支援と連携の強化
- ・ 社団法人化のメリットを活かした活動の推進
- ・ 富山県ソフトボール協会賛助会の充実・発展
- ・ とやまソフトボールファンクラブの創設
- ・ 富山県ソフトボール協会ホームページの充実
- ・ 県協会事務所の利活用



県協会事務所



富山県ソフトボール協会、近10年のあゆみ

【平成22年～令和元年】

■ 平成22年度

5月に日本女子リーグ1部を高岡市城光寺球場で、9月に富山県で初めて、文部科学大臣杯全日本大学男女選手権大会を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場、婦中スポーツプラザで開催し、10月に全国スポレク祭を射水市で開催した。2月には北京五輪優勝監督斉藤春香氏を招聘し、ソフトボールフォーラムを開催した。小・中学生400名が参加した。



「夢への挑戦」 講師 斉藤春香氏

■ 平成23年度

中日本総合男子大会を岩瀬スポーツ公園で開催し計30チームが出場した。小学生の部では富山ジュニア男子ソフトボール部が第3位入賞を果たした。日本女子リーグ2部ホープセクションを岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。日本男子東日本リーグを黒部市宮野運動公園野球場で開催した。本大会をUstreamでLIVE配信した。



中日本総合で選手宣誓をする上野選手

■ 平成24年度

高校生のスポーツの祭典、全国高校総体ソフトボール競技が開催され、滑川高校は初戦を突破した。4月に射水市歌の森球場で日本女子リーグ1部を開催した。富山県出身の金尾投手（雄山高校出身）や塚田選手（滑川高校出身）が出場した。県協会では本大会より、本格的な動画LIVE配信を開始した。



全国高校総体ソフトボール競技 開会式

世界男子ジュニア選手権大会にYKK所属の下井倉選手が日本代表として出場し、準優勝を収めた。また、本年度より、中学校1、2年生の体育の授業にベースボール型が必修となり、それに合わせて中学校体育教師を対象にした研修会を実施した。（4年間継続実施）

■ 平成25年度

3月、大分県で開催された春季全日本小学生女子大会に吉島ジュニアとダイヤモンドキッズが出場し、ダイヤモンドキッズは準決勝まで進出し、



3位入賞 ダイヤモンドキッズ

第3位入賞を果たした。4月には日本女子リーグ部を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。さらに、7月には本県としては31年ぶりに全日本実業団男子選手権大会を岩瀬スポーツ公園で開催した。10月には、日本女子リーグ1部第9節を黒部市宮野運動公園野球場で開催し、上野投手、金尾投手（雄山高校出身）等が活躍した。

■ 平成26年度

5月、東日本男子リーグを岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。全日本壮年大会において、ニコルズ（上市町）が、奥野投手などの活躍で4年ぶり2回目の優勝を果たした。また、YKK女子が全日本実業団大会で3位に入賞した。さらに、7月にカナダで開催された世界ジュニア男子選手権大会にYKK所属永山健仁選手が日本代表として出場し第3位に入賞した。

■ 平成27年度

3月に開催された全日本春季小学生女子大会において、経田B-WINGSは3位に入賞した。また、全日本小学生女子大会を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。経田B-WINGSとダイヤモンドキッズがベスト8まで進んだ。4月に日本女子リーグ2部、8月に中日本総合女子大会を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催し、9月に日本女子リーグ1部をボールパーク高岡において開催し、上野投手らの活躍で多いに盛り上がった。さらに、10月に東日本男子リーグを岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。

■ 平成28年度

東京2020オリンピックに野球、ソフトボール競技が正式種目に採用決定した。5月に富山市小学校教員を対象にしたベースボール型研修会を開催した。同じく5月に東日本男子リーグ、7月に全日本クラブ男子選手権大会をそれぞれ岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催し、大森ソフトボールクラブがベスト8に進んだ。また、日本スポーツマスターズにおいて、戸出マスターズがベスト4に入賞した。



全日本実業団男子選手権大会



ニコルズ（上市町）全国優勝 2回目



全日本小学生女子大会で選手宣誓をする朝野選手



全日本クラブ男子選手権大会

■ 平成29年度

4月に日本女子リーグ2部を、岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。併せて「JSLソフトボールフェスタinとやま」を開催し、さらなる普及を図った。また、5月に日本男子東日本リーグ第1節を開催した。北信越大会では、高校新人男子で富山工業高校、大学男子オープンでは富山大学がそれぞれ優勝した。滑川高校は1昨年の新人戦から5大会連続で優勝した。



ソフトボールフェスティバルの様子

■ 平成30年度

5月に日本男子東日本リーグ第1節を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。福井しあわせ元気国体では、少年男子（富山工業高校）が5位に入賞し、県内男子選手に大きな刺激と勇気を与えた。8月には東日本大学男子選手権大会を開催し、成功裏に終了した。来年度から全日本大学男子選手権の5カ年継続開催に大きな弾みがついた。11月には、ねんりんピック富山大会を10球場を使用して開催し、多いに盛り上がった。



5位入賞 少年男子（富山工業高校）

■ 令和元年度

4月1日から、一般社団法人富山県ソフトボール協会と法人格を得、責任ある、持続可能なスポーツ団体として新たな1歩を歩み出した。また、岩瀬スポーツ公園内に協会事務所を設置した。5月に日本女子リーグ2部、6月に中ブロック女性審判員研修会、北信越高校総体、7月に小学校体育部会夏季研修会においてベースボール型授業研修会を開催、9月に全日本大学男子選手権大会、10月に日本女子リーグ1部、日本男子リーグ、北信越大学男子・女子新人大会を開催した。さらに11月には当協会創立70周年記念事業を電気ビルディングで開催した。



令和元年度 女性審判員研修会



令和元年度 小学校体育部会夏季研修会

富山県ソフトボール協会 60年のあゆみ

【振興時代（昭和24年～30年）】

終戦当時、現在の第一生命ビルと高志会館を含めた周辺一帯は進駐軍グラウンドとして整備され、米軍によるソフトボール競技が盛んに行われ、県民の注目の的となっていた。「昭和23年には日本繊維・不二越・広貫堂・日清紡の4社がチームを編成し日清紡のグラウンドで第1回富山県女子ソフトボール大会を開催した」と富山県スポーツ百年誌に記載されている。

- **昭和24年** 7月に事務局を日本繊維に置き、会長 長沢久治氏（日本繊維）、理事長 武内与次郎氏（日本繊維）等により富山県ソフトボール協会が誕生した。8月、高岡市で開催された第2回県民体育大会で正式種目として採用され、一般女子、高校女子の部が実施された。
- **昭和25年** 国民体育大会にソフトボール競技が正式種目として採用され、高校女子、一般女子の部が実施され、富山県からは日清紡富山が出場した。
- **昭和26年** 第4回県民体育大会から中学校女子部が採用された。
- **昭和30年** 第1回全日本一般男子選手権大会北陸予選会が富山市で開催され、日本カーバイト魚津が優勝した。

【充実時代（昭和31年～40年）】

組織、各種委員会並びに規約等を充実させ、確固たる基礎づくりがされた。

- **昭和32年** 静岡国体から一般男子の部が採用され、富山県から日本カーバイト魚津が出場し、第4位に入賞した。また、立山町で第9回一般女子選手権大会が開催された。
- **昭和33年** 第13回国民体育大会ソフトボール競技を立山町で開催し、一般男子 YKK吉田工業が第一位、一般女子 まると百貨店が第二位の成績を収めた。
- **昭和39年** 新潟国体において日本カーバイト魚津が第三位に入賞した。

【発展時代（昭和41年～平成元年）】

- **昭和44年** YKK吉田工業男子チームが頭角を現し全日本一般男子で準優勝、国体・全日本実業団で第三位に入賞した。昭和47年より日本男子リーグにYKK吉田工業が加盟し、48年には黒部で日本男子リーグを開催した。
- **昭和50年** 日本女子リーグを福光町で日本男子リーグを富山市で開催した。
- **昭和51年** ニュージーランドで開催の世界男子選手権大会にYKK吉田工業の小林日良選手が出場し、全日本の3番打者として活躍した。
- **昭和50年代**に入り、県民の生活が豊になりスポーツを楽しむことが多くなったことや県内の学校にナイター設備が設置されたことからソフトボール競技が各地で盛んにおこなわれ、殆どの市町村にソフトボール協会が設立された。
- **昭和54年** 12月協会創立30周年記念式典を開催するとともに30周年記念誌を発刊した。
- **昭和56年** 全日本実業団男子選手権大会を黒部市で開催した。
- **昭和59年** 日本男子リーグを入善町で、日本女子リーグを黒部市で開催した。
- **昭和60年** チャイニーズタイペイ・インドネシア男子チームを黒部市宮野野球場に招聘し富山県選抜チーム等と国際交流大会を開催した。
- **昭和61年** 日本男子リーグを婦中町で開催した。
- **昭和62年** 待望した富山県ソフトボール協会会報「ソフトボールとやま」を発刊し、“協会のあゆみ”

としてソフトボール関係者の方々に活用されている。全日本教員大会を福光町、福野町で開催、全国から48チームが参加した。

【飛躍時代（平成2年～現在）】

- 平成元年11月 協会創立40周年記念式典を開催するとともに40周年記念誌も発刊した。
- 平成2年 岩瀬スポーツ公園にソフトボール場が2球場完成した。
- 平成4年・5年 山形国体、東四国国体において少年女子が2年連続第三位に入賞した。
- 平成5年 全日本シニア大会を富山市で開催した。
- 平成6年 全国高校総合体育大会を開催した。（開催地：男子：立山町、女子：婦中町・八尾町）
長勢甚遠会長が日本ソフトボール協会の副会長に就任した。
- 平成8年 アトランタオリンピックに女子ソフトボール競技が正式種目として採用され、加藤謙蔵審判委員長がアジアで唯一人ソフトボール競技の審判員として参加した。
- 平成9年 岩瀬スポーツ公園にソフトボール広場として、念願のソフトボール専用球場が4球場完成した。
- 平成11年 世界男子の王者ニュージーランド男子チームを黒部市宮野野球場に招聘し富山県選抜チーム等と国際強化大会を開催、世界王者のパワーとスピードが観客の度肝を抜いた。国体少年男子会場となる立山町民グラウンド竣工記念として日本女子リーグを開催した。国体リハーサル大会と位置づけ、黒部市で全日本クラブ男子選手権大会、大沢野町で全日本クラブ女子選手権大会を開催し、Sスターズソフトボールクラブが第三位に入賞した。
熊本国体では全種別出場、成年男子が第三位、成年女子が第五位に入賞、男女総合成績も第七位に入賞し、2000年とやま国体に向け強化が進んだ。全国女性審判員研修会を呉羽少年自然の家等で開催した。
- 平成12年 「2000年とやま国体」を開催し、成功裡に成し遂げた。（開催地 成年男子：黒部市・少年男子：立山町・成年女子：大沢野町・少年女子：婦中町）また、少年男女が第2位、成年男女が第3位に入賞し、念願の男女総合優勝を果たした。全日本・実業団女子選手権大会でYKK女子が準優勝、全日本クラブ女子選手権大会で大沢野ウインディーズが第三位に入賞した。
同年、「きらりんぴっく富山」グラウンドソフトボール競技を、皇太子ご夫妻をお迎えして盛大に岩瀬スポーツ公園補助競技場において開催した。
- 平成13年 21世紀に向けて優秀な選手や指導者が育つように資金的援助ができる組織として、富山県ソフトボール賛助会が設立された。日本女子リーグ1部を黒部市、中日本総合男女選手権大会を大沢野町・婦中町で開催した。富山県では第3回目となる全国女性審判員研修会を県総合公園屋内グラウンド等で開催した。全国中学校大会において、雄山中学校女子が第三位に入賞、YKK女子が全日本実業団選手権大会で準優勝を果たした。
- 平成14年 協会ホームページを開設し、ソフトボール情報の迅速化を進めた。日本女子リーグ1部を上市町丸山総合公園や球場で開催した。全日本レディース大会を富山市 岩瀬スポーツ公園で開催し、全国から48チームと沢山の女性審判員が参加した。東日本大学男女選手権大会を入善町中心に黒部市・魚津市で開催した。全日本実業団男子選手権大会でYKKが初優勝を飾り、全日本実業団女子選手権でYKKが、全日本クラブ女子選手権で大沢野ウインディーズがそれぞれ第三位に入賞した。
- 平成15年 日本男子リーグ2部を黒部市、日本女子リーグ3部を富山市で開催した。また、宇津木妙子氏を講師に招きソフトボールフォーラム2003を県総合運動公園屋内グラウンド等で開催し、中・高校生約600名が参加した。全日本実業団男子選手権大会でYKKが2連覇を果たした。静岡国体には3種別出場し、少年女子が第五位に入賞した。

- **平成16年** 藤森友義副会長が日本ソフトボール協会の副会長に就任した。日本男子東日本リーグを大沢野町町営野球場と多目的グラウンドで開催した。日本女子リーグ1部を黒部市で開催し、上野投手などシドニーオリンピック銀メダリストが出場し沢山の観客が詰め掛けた。大会終了後レオパレス21藤原監督や選手によるソフトボール教室も開催した。YKK女子が全日本実業団選手権で第三位入賞した。藤森友義副会長が文部科学大臣賞（生涯スポーツ功労賞）と北日本新聞社スポーツ功労賞を受賞した。
- **平成17年** 日本スポーツマスターズ2005ソフトボール競技を男子は立山町、女子は富山市で開催し、県屋内グラウンドにおいてシンボルメンバーの宇津木妙子氏を講師に小学生を対象にソフトボール教室も開催した。日本女子リーグ1部を砺波市チューリップスタジアムで開催した。大会終了後トヨタ自動車チームによるソフトボール教室を開催した。日本女子リーグ2部を魚津市で開催するとともにシドニーオリンピック銀メダリストの坂井寛子選手によるピッチング教室を開催した。全日本クラブ女子選手権で大沢野ウインディーズが第三位に入賞した。岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場にナイター設備が完成した。事務局をYKK松風荘からYKK厚生会館に移設した。
- **平成18年** 加藤謙蔵副会長が日本ソフトボール協会の審判委員長に就任した。富山県ソフトボール協会専門委員会に女性委員会が発足し、森山紘子が初代委員長となった。富山県では始めて全日本総合男子選手権大会を岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で開催した。また、中日本総合女子選手権大会を岩瀬スポーツ公園・東富山運動公園で開催した。全日本実業団女子選手権大会でYKKが3度目の準優勝を果たした。国会において、安倍新内閣に伴い長勢甚遠会長が法務大臣に就任された。加藤謙蔵副会長が北日本スポーツ功労賞を受賞した。
- **平成16～18年**の市町村合併に伴い、支部組織再編を行った。（28支部→14支部）
- **平成19年** 日本女子リーグ1部を富山県営野球場で開催した。大会終了後ホンダチームによるソフトボール教室を開催した。全国女性審判員研修会を富山県総合体育センター・県屋内グラウンドにおいて開催した。日本ソフトボール協会常務理事宇津木妙子氏を派遣役員として迎え、岩瀬スポーツ公園で全日本小学生女子大会を開催した。日本女子リーグ2部を黒部市宮野運動公園で開催したが雨にたたられる大会で1日順延となった。タイ国の要請により藤森壽副理事長が6月より半年間タイナショナル男女チームの指導に派遣された。秋田国体に3種別出場し、成年男子が第五位に入賞した。高畑 稔副会長が富山県教育功労者表彰を受賞した。
- **平成20年** 日本女子リーグ1部を上市町丸山公園野球場で開催した。上野由岐子投手など北京オリンピック日本代表及びオーストラリア代表選手9名が出場した。富山県で始めて全国中学校男女ソフトボール大会を岩瀬スポーツ公園で開催した。県勢は男女5校が出場し、善戦はしたが初戦で全て敗退した。日本女子リーグ2部最終節を加盟18全チーム迎えて岩瀬スポーツ公園で開催した。地元YKKは4勝1敗の好成績をあげた。
春の叙勲で藤森友義副会長が旭日双光賞を受賞し、盛大に受章祝賀会を開催した。高畑稔副会長が文部科学大臣賞（生涯スポーツ功労賞）を受賞した。加藤謙蔵副会長が県スポーツ功労者表彰を受賞した。
- **平成21年** 富山県ソフトボール協会60周年記念事業として、第42回日本女子リーグ1部第6節富山（魚津市）大会を招聘した。北京オリンピックの金メダリスト上野由岐子投手などが出場したこともあり、2日間で5,000名近い観客が詰めかけ大いに盛り上がった。また、試合終了後1日目は小学生を対象に宇津木妙子氏を講師に、2日目は中学生を対象に宇津木麗華氏他ルネサステクノロジー高崎事業所選手によるソフトボール教室を開催した。

「子供たちに夢と感動を与える」事業として日本リーグ等の大きなイベントを積極的に毎年開催している。また、ソフトボール教室等も同時に開催し、普及発展に努め、一貫指導システムの構築も図っているが、2年連続で全種別国体出場を逃しており強化組織の見直しが迫られている。富岡智氏（滑川高校）がU19女子日本代表のコーチとして、ISFユースワールドに出場し、金メダルを獲得した。